

生活の話とサクセスストーリー：本田 宗一郎



「ロシアと日本の間の戦争の後で、自転車の修理やで働き始めました。本田はいつもこのときのことを思い出していました。ほかの思い出は大好きな FORD のモデルでした。それで自動車の仕事をするつもりでした。」

静岡県しずおかけんの小さい村ちいむらで 1906年11月17日生まれた本田 宗一郎ほんだ そういちろうの九人兄弟きやうだいの長男ほんだでした。本田の家族はそんなにおかね持ちかぞくがなかったですがお父さんは息子に真面目まじめによくがんばることをおしえました。メカニクスめかにっくすがじょうずで玩具あそびを自分でつくっていました。ちかくのパン屋ぱんやに小さい機械ちいのうすがありました、そしてその音をきくは楽しかったです。いつもおばあさんにあそこへつれて行ってほしいと頼みたのました。お父さんの仕事も手伝てつだっていました。いつも顔かたなが汚がっこういので学校でのニックネームは「黒い鼻のいたち」でした。すぐに本田は自転車をなおすのがじょうずになりました。それから彼の夢ゆめは田舎いなかの道で自動車を運転うんでんすることでした。そうできるように毎日メカニクスまいにちめかにっくすを研究けんきゆうしていました。1917年に有名なアメリカ人のパイロットわちさんくうこうが和知山空港へきました。このニュースにわくわくしました。家族の金庫かぞくからお金を取って、お父さんの自転車を「かりて」、20キロメートルぐらいのって、いったことがなかった空港くうこうまで行きました。空港についてからその飛行機ひこうきを操縦ひこうきするのがとても高いことを教えられました。しかしまだ飛行機が飛んでいるのを木の上で見られるのは面白おもしろかったです。お父さんは宗一郎をむかえに行っておりましたが、彼が一人かれひとりでそこへ行った自信じしんにびっくりしました。息子をむすこしかりましたが、息子は気が強くて勝気むすこでしたら、心こころの中でほめました。



世界大戦の終わりと大きい関東地震の間、東京の車の店で働いていました。17歳の時カーレースをかけた人「四日 さき場原」の隣にメカニックをしていました。お客様が新しい自動車（Mercedes, Lincoln と Daimler）なおしにもって来れば来るほど本本の経験は多くなっていきました。そのレースから4年後で浜松に自分の店をもちました。日本でだけ成功しようとは 思っていないでした。世界で有名になることは一番大切なことでした。



1946年にHonda Motor Co. Ltd.はできました。日本の社員に小さいのりものを作らせるつもりでした。会社の工学技術をよくしようところみました。浜松工業でピストンリングのデザインを学んで小さいエンジンを自転車に使いました。しばらくして知りかったしんにんの友達、藤沢孝枝を社長にしました。藤沢さんにいつもしょうらいについてと 思うほうが良いと言っていました。町でつかわれていたはじめてのバイクのなまえは「夢」でした。のちに倒産しそうになっても、リスクをおかさなければ大きい会社にはなれなことを知っていました。本田によると、本田は藤沢によって会社のはんこをぜんぜんさわりませんでした。

いま本田は飛行機のエンジンからロボットまでいろいろな製品作っています。本田と藤沢は子供に自分で本田ではたらかどわかのをきめさせようとおもっていました。1991年になくなるのまえに、77歳でもまだスキーをすると 気球を運転するのがとても好きでした。

